

G-1: 知的財産

開催日時・会場 9月18日(金曜日) 13:45 - 15:15 会場C

医工連携の新時代～ビッグデータ、オープンイノベーション等を活用した新しい研究の潮流

医療を取り巻く環境は、近年の目覚ましい技術の進歩により大きく変わってきています。ゲノム解析技術の進化により遺伝情報を個人が持つ時代になって個別化医療が進み、iPS細胞技術はこれまで克服困難であった様々な疾患の治療を実現し、AIやロボティクスは人の手を用いずに行う高度な医療の実現に役立っています。このような環境変化は、これまでに医療分野と縁がなかった多数の企業の参入をも促し、異分野の合流により、テクノロジーの進歩と応用を加速させています。また、大きな時代の流れとともに、大学の研究は研究者個人の研究からチーム・組織の研究へと発展してきました。多数の研究者等がチームを形成することにより、ゲノムデータ、医療情報、生活習慣や家族情報など膨大なデータ(ビッグデータ)を集めることができ、疾患予測システム、自動診断システムの開発やスマートシティ構想などの新しい価値・可能性が見出されています。

このセッションでは、医療分野において先進的な研究活動を行っている研究者から、最新の研究事例を紹介し、URAの役割について読み解いてみます。自然科学研究機構 小泉氏は、「医療データの利活用に関する最近の取り組み事例や将来性、医療データ取り扱いにおける課題」について紹介します。また、今年改正された個人情報保護法により医療データの取り扱いはどのように変わり、どのような可能性を生むのか、について概説します。株式会社HYPER CUBE 小塩氏は、AIによる画像診断技術の研究に携わった経験から、「AIがもたらす医療革新」について紹介します。AI活用により医療がどのように変わるのか、医療機器等への適用はどこまで進んでいて、どのような課題が残されているのかについても事例を交えて解説します。

今後の医学研究を効果的に進めるためには、チーム研究における知的財産のあり方、個人情報の取り扱い、コンソーシアム研究の構築・進捗管理など個人の研究者では担えない役割があります。2人の登壇者を交え、医学研究の発展に向けたURAの新たな役割について考える場を持ちたいと考えています。

セッション担当者



古賀 敦朗: 鳥取大学 研究推進機構 URA准教授

専門は分子生物学。大学院修了後、製薬企業において創薬研究、バイオベンチャーではゲノム疫学研究に従事し、2013年より現職。研究者と企業のつなぎ役として、創薬、医療機器、臨床研究など医療に関わる多数の研究開発を企画・推進している。

登壇者



小泉 周: 自然科学研究機構 研究力強化推進本部 特任教授

慶應義塾大学医学部卒業。医師、医学博士。ハーバード大学医学部研究員などを経て、2013年より現職。統括URAとして、研究力強化の取り組みを主導している。



小塩 篤史: 株式会社HYPER CUBE 取締役(CIO)

研究者・事業家として、専門分野である未来学、データサイエンス、人工知能、技術経営などを背景に活動している。未来の社会課題に対して、その解決の方向性を示唆する未来ストーリーを描きつつ、現場の専門知、生活レベルの感性、最先端の研究を融合させた新しい解決策を提案する。またアカデミックな研究を社会実装するIncubation Technologyの体系化に取り組んでいる。